

令和元（2019）年度
自己点検・評価報告書
（抜 粋）

鎌倉女子大学 中等部・高等部

1. 教育目標

1-①	・建学の精神に基づいて教育目標を設定し、教育活動その他の学校運営を行っているか。
2019年度の 取組目標	【中・高共通】 ①建学の精神に基づいて教育目標を見直す。 ②教育目標の具現化のために教育活動、学校運営についての中期学校経営プランを策定する。
目標に対する 取組内容 と成果	【中・高共通】 ・従来の学校教育目標をもとに表現の仕方を修正したり、ESD（持続可能な開発のための教育）の視点を加味したりして学校教育目標を設定した。 (1)自立して活躍できる高い学力を育成する。 (2)自己を高める豊かな人間性を育成する。 (3)国際社会で通用する語学力を育成する。 (4)持続可能な社会に参画する力を育成する。 ・学校教育目標と学校運営目標を具現化するために、今後、3年間を目途とした学校経営の方針をまとめた「中期学校経営プラン」を策定した。教職員に周知させるために研修会を開催し、1年目の計画を実行に移した。
今後の課題	【中・高共通】 ・今後は、新しく設定した学校教育目標を、教職員や生徒が意識して活動していく必要がある。そのため、教職員や生徒が学校教育目標を共有できるよう、校内広報、部長講話などの機会を活用する。 ・学校教育目標、学校運営目標の達成度を具体的に評価するシステムを構築する必要がある。
2020年度の 取組目標	【中・高共通】 ①教職員及び生徒が学校教育目標を共有できるようにする。 ②学校教育目標、学校運営目標の具現化を図るために、校務分掌の各部署が重要経営指標（KPI）を設定する。

1-②	<p>・ 中等部・高等部の状況を踏まえ、重点化された中・短期の目標が定められているか。</p>
2019年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①教育活動として、「21世紀型能力の資質能力を育成する。」（知）と「豊かな人間性を育成する」（心）の2点を重点目標に設定する。</p> <p>②学校運営として、「選ばれる学校にする。」「大学進学実績を向上させる。」「効率的な組織運営に取り組む。」の3点を重点目標に設定する。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「21世紀型能力」の育成のために、「学力向上プラン」「ESDプログラム」「英語教育・国際理解教育プログラム」「キャリア教育プログラム」を策定し、それぞれの目標（育成する資質能力）を設定した。また、「豊かな人間性」の育成のために、「心の教育プラン」を策定し、目標を設定した。 ・ 選ばれる学校にするために、「入試方法の見直し」「学校広報の見直し」を取組目標とした。大学進学実績を向上させるために、「大学受験に適応したコースの見直し」「予備校活用の見直し」「国公立大学への進学を目指した教育課程の見直し」を取組目標とした。効率的な組織運営のために、「校内組織の見直し」を取組目標とした。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和2（2020）年度から本格的に実施される2つのプランと3つの学習プログラムの進捗状況をそれぞれの目標に照らし合わせて確認する。 ・ 学校運営の目標を教職員全員で更に共有する必要がある。 ・ ESD（持続可能な開発のための教育）と国際理解教育を推進し、令和4（2022）年にユネスコスクールへの加盟を目指す。そのため、取組をまとめた報告書を令和3（2021）年9月にユネスコ本部に報告する必要がある。 ・ 従来の取組を体型的廃棄したり、新しい取組を立ち上げたりと、本格的な学校改革が開始された。今後は、校務分掌の各グループとしての具体的な数値目標を設定していく必要がある。数値目標については十分に吟味して設定し、教職員に共有していく。
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①教育活動として、「21世紀型能力の資質能力を育成する。」（知）と「豊かな人間性を育成する」（心）の2点を重点目標に設定する。</p> <p>②学校運営として、「選ばれる学校にする。」「大学進学実績を向上させる。」「効率的な組織運営に取り組む。」の3点を重点目標に設定する。</p> <p>③ユネスコスクールへの加盟を目指して、ESD（持続可能な開発のための教育）と国際理解教育に計画的に取り組む、成果を残す。</p> <p>④各目標の具現化を図るために、各校務分掌のグループ毎に重要経営指標（KPI）と数値目標をそれぞれ設定する。</p>

2. 教育課程

2-①	<p>・教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施され、その考え方について教職員間で共有されているか。</p>
2019年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①建学の精神を大切に「徳育・知育・体育」の調和による品位のある中等部・高等部の生徒を育成する。</p> <p>②自立して活躍できる確かな学力を育むための取り組みを強化する。</p> <p>③生徒の学力向上に向け、より内容の充実した授業改善に取り組む。</p> <p>【中等部】</p> <p>①基礎学力の定着を目指す。</p> <p>【高等部】</p> <p>①大学受験合格実績の向上を目指す。</p>
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <p>・学校教育目標を具現化するための教科等横断的な学習として、「心の教育プラン」「学力向上プラン」「英語教育・国際理解教育プログラム」「ESDプログラム」「キャリア教育プログラム」を策定した。</p> <p>・学習支援クラウドサービス「Classi」のコンテンツを利用することで、学習時間や学習内容の見える化を図り、自立した学習を促すことができた。また、自立して活躍できる確かな学力を育むため、教員各自が外部研修に参加しスキルアップを目指した。</p> <p>・生徒の学習状況を把握し、定期的に生徒と面談をするなど、学習指導を充実させてきたが、数値として表れるほどの学力向上には至らなかった。</p> <p>【中等部】</p> <p>・週6日制のメリットを生かしたり、家庭学習の習慣化を推進したりして、基礎学力の定着を図った。</p> <p>【高等部】</p> <p>・受験を意識した授業を展開しつつ、基礎力不足の生徒に向けた指導にも取り組んだ。</p>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <p>・学力向上を目指した教科の教育課程の運営・改善に継続的に取り組む。</p> <p>・学校教育目標を具現化するための教科等横断的な学習を編成する。</p> <p>・コース毎に特色ある教育課程を編成する。</p> <p>・令和2（2020）年度からの土曜休業に伴い、年間計画や日課表を見直す。</p> <p>・学習指導要領の改定に伴い、教科等の教育課程を見直す。</p>
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①学力向上を目指した教科のカリキュラム・マネジメントに取り組む。</p> <p>②教科等横断的な学習として、「心の教育プラン」「学力向上プラン」「英語教育・国際理解教育プログラム」「ESDプログラム」「キャリア教育プログラム」を編成し、実施する。</p> <p>③プログレスコースと国際教養コースの教育課程を編成し、実施する。</p>

	<p>④週休2日制に合わせた年間行事予定、日課表を編成し、実施する。</p> <p>【中等部】</p> <p>①令和3（2021）年度完全実施の学習指導要領に基づく教育課程の編成を完成させる。</p> <p>【高等部】</p> <p>①令和4（2022）年度完全実施の学習指導要領に基づく教育課程の編成に取り組む。</p>
--	---

2-②	<p>・教育課程の実施に必要な、教科等の年間指導計画や週案などが適切に作成されているとともに、教科等の指導体制が整備され、授業時数の配当が適切に行われているか。</p>
2019年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①授業時間数の確保のため、行事の見直しを検討する。 ②授業進度や内容を「シラバス」として作成する。 ③各担当は、すべての授業の「年間学習指導計画表」を作成する。 ④短縮授業や半日授業などで、可能な限り行事日も授業を行う。 ⑤学習指導要領の改訂に向けた取り組みを行う。 ⑥国際教養コースとプログレスコースの特色ある教育活動を検討する。 <p>【中等部】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①道徳、総合的な学習の時間、特別活動については、年度当初に学年ごとの年間計画を立て、活動の方針を決定する。 <p>【高等部】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①シラバスに記載した内容を遵守し、学力向上に向けた取り組みを実施する。 ②各学年において、4月初旬に総合的な学習の時間、ロングホームルームの年間計画を立てる。
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2（2020）年度は、行事を選定し、令和元（2019）度よりも中等部で52%、高等部で62%減らし、授業時数の確保ができた。 ・「シラバス」については、各教員が担当する授業をそれぞれ作成し、計画的に授業が行われた。 ・「年間学習指導計画表」は、学期ごとに「自己評価」及び「今後の課題と対策」を記入して報告することで、授業改善に努めた。 ・ロングホームルームは、各学年の行事や進路指導を中心に、また、総合的な学習の時間は、高等部3年生を除きKBP（Kamakura Beyond Project）の取り組みを中心に計画され、実施することができた。 <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育では、入学坐禅、立居振舞講座などを年間計画に盛り込み、適宜実施することができた。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスは教科で検討・作成し、その計画に従って授業を実践した。 ・3年生は計画的に受験指導を行うことができた。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科等の指導体制を整備するために、教科会の機能を活用する。 ・教科の年間学習指導計画表を適切に作成するために、組織的な取組が必要である。 ・特別活動、総合的な学習の時間、総合的な探究の時間、道徳を効果的に実施するためには、各年間指導計画を各学年が作成するのではなく、学校として作成する必要がある。 ・授業時数の配当と管理を適切に行う。

2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①教科会を定期的を開催し、教科の指導方針や教材・教具、指導方法等に関する情報の共有を行い、教科の指導体制を整備する。</p> <p>②本校の教育課程と教科の指導方針に基づき、各教科担任が授業の年間学習指導計画表を作成する。</p> <p>③学習指導委員会が特別活動、総合的な学習の時間、総合的な探究の時間、道徳の年間指導計画を作成し、それに基づき、各学年が学習案や実施計画を作成する。</p> <p>④バランスの良い授業時数の配当を行い、各授業のシラバスを作成して授業進度を管理する。</p>
-----------------	--

2-③	<p>・生徒の学習について観点別学習状況の評価や評定などの基準が設定されているか。</p>
2019年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①学年やコースなど、生徒個々の学習状況に応じ、生徒の学習を多面的に評価するために、定期試験の点数以外に、日頃の学習の取り組み等を対象に加えて評価する。</p> <p>②定期試験の目標とする平均点を60±5点と定め、問題の難易度の適正化を図る。</p> <p>【中等部】</p> <p>①観点別評価が4観点から3観点になることや、特別の教科道德の記述による評価など、文部科学省による指導要録の様式変更に伴い、全教員が理解を深め、適切に対応していく。</p> <p>【高等部】</p> <p>①評価の基準に模擬試験等の結果を加えることで、実力に応じた評価を行う。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃の学習の取り組みを評価に反映することができた。 ・定期試験の難易度を平均点60±5点と設定し、教員に周知し、問題の適正化を推進した。 <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価の変更については、情報提供することができた。令和2（2020）年度から始まる道德の授業に関する記述による評価の規準等、具体的な情報提供が年度末の新型コロナウイルス感染症へに対応による臨時休業のためにやや不足してしまった。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価の基準に模擬試験等の結果を加え、評価を行った。その中で、AO入試、推薦入試で進路が決まった生徒の模擬試験に対する意欲の低下がみられた。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2（2020）年度より国際教養コースとプログレスコースが設置されるため、試験の作問及び評価方法について検討していく必要がある。 <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科横断型の授業を展開することで、新入試に向けた対策を講じる必要がある。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生の文理選択後と3年生の進路が決定した生徒の学習の目的意識を高めることが必要である。
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①学年やコースなど、生徒個々の学習状況に応じ、生徒の学習を多面的に評価するために、定期試験の点数以外に、日頃の学習の取り組み等を対象に加えて評価する。</p> <p>②定期試験の問題の適正化を図るために、目標とする平均点を60±5点と設定する。</p>

	<p>【中等部】</p> <p>①道徳の具体的な評価方法について、全教員で共有する。</p> <p>【高等部】</p> <p>①正確な評価・評定を出すために、計画的に評価資料を収集する。</p>
--	---

3. 学習指導

3-①	<p>・学習指導要領や学則にのっとり、中等部・高等部全体として、生徒の発達段階や学力、能力に即した指導が適切に行われているか。また、生徒の学力・体力の状況を把握し、それを踏まえた指導が行われ、PDCAサイクルに基づいて適切に指導が改善されているか。</p>
2019年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①英語検定については、各学年の目標級を達成できる生徒数を増やすことや、上位級の合格率を高めるために、教科で検討を重ねて改善していく。</p> <p>②模擬試験等の結果を分析することで、生徒の学習状況を把握し、授業改善や個々の生徒への指導に活用する。</p> <p>【中等部】</p> <p>①中高6年間を見越した各教科の学習指導計画の構築を図り、本校の実態に即した教科教育を行う。</p> <p>【高等部】</p> <p>①3年間を見越した各教科の学習指導計画の構築を図り、本校の実態に即した教科教育を行う。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <p>・英語検定は、中等部3年次では3級以上の取得者が88.2%で概ね目標を達成したが、高等部3年次では2級以上は9.0%であった。</p> <p>・模擬試験で個々の生徒の学力の状況を把握し、「Classi」の「生徒カルテ」で情報を管理し、二者面談や三者面談で活用することができた。</p> <p>【中等部】</p> <p>・新入生試験や入学前課題により、基礎学力の定着を図るだけでなく苦手分野の克服に努めた。</p> <p>・1・2年生は特進コース、3年生は特進クラスと進学コースとそれぞれの学力にあった学級編成を行い、それぞれの学習状況に合わせた指導をすることができた。</p> <p>【高等部】</p> <p>・入学前課題により、高等部入学試験後も学習の目標を失うことなく学習意欲や学習姿勢を維持することに努めた。</p> <p>・特進クラスと進学コース、更に進学コース内には学力の高い生徒を集めた選抜クラスを設置し、それぞれの学力の状況に合わせた指導をすることができた。</p>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <p>・模擬試験の結果を生徒の指導だけでなく、教員の指導改善にも生かす。</p> <p>・体力に関する情報を全教職員で共有するようにする。</p> <p>・英語検定の受検を推進し、昇級を支援する。</p> <p>・生徒の授業アンケートの指標を見直し、教員の指導改善に役立てる。</p>
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①模擬試験等により生徒の学力の状況を把握し、学力向上のために生徒を指導するとともに、指導の工夫・改善に取り組む。</p>

<p>②各種調査により生徒の学習の状況を把握し、学習習慣の定着のために生徒を指導するとともに、保護者と情報を共有するために、年間3回以上、二者面談・三者面談を実施する。</p> <p>③生徒の体力の状況を把握し、体力向上のために生徒を指導するとともに、指導の工夫・改善に取り組む。</p> <p>④生徒の英語の4技能の獲得状況を把握し、英語力を向上させるために国際理解教育担当者会は学校を会場とした英語検定試験を実施する。</p> <p>⑤各学期、授業評価を実施し、指導の工夫・改善に取り組む。</p> <p>【中等部】</p> <p>①英語検定で、プログレスコースは、（令和4（2022）年）中等部3年次で準2級以上（60%）を目指し、国際教養コースは、（令和3（2021）年）中等部2年次で3級以上（50%）、（令和4（2022）年）中等部3年次で準2級以上（80%）を目指して指導する。</p> <p>【高等部】</p> <p>①英語検定で、プログレスコースは、（令和4（2022）年）高等部3年次で準2級以上（60%）を目指し、国際教養コースは、（2022年）高等部3年次で2級以上（50%）を目指して指導する。</p>
--

3-②	<p>・体験的な学習や問題解決的な学習、生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習が適切に行われているか。</p>
2019年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①「主体的、対話的な深い学習」を実現するために、各教科の授業において、教員の一方的な「教え込む授業」だけでなく、グループごとに課題に取り組んだり、討論の場を設け発表したりする授業に取り組む。</p> <p>【中等部】</p> <p>①生徒の実践力を向上させるために、教科横断的な学習として、様々な学習プログラムを実施し、体験的な学習、参加型学習、課題解決学習等を展開する。</p> <p>【高等部】</p> <p>①体験的な学習や問題解決的な学習を通して、生徒が抱いた興味・関心とその後の自主的な学習につながっていくようにする。</p>
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的、対話的な深い学習」を実現するため、授業のなかで、アクティブラーニングに取り組む場面も見られるようになってきた。 ・エンカウンター講座、コミュニケーション講座などの参加型学習を外部講師によって実施した。 ・英語集中研修、遠足的行事、精神修養会、芸術鑑賞教室、入学坐禅、立居振舞講座などの体験型学習を実施した。 ・令和元（2019）年度初めて、オーストラリアの姉妹校（ブリジディン・カレッジ）から生徒28名、引率者3名を受け入れ、2日間交流し、体験的な学習をすることができた。 <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生は、入学オリエンテーションのなかで、中・高等部長が人権教育の参加型学習のアクティビティを実施した。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて、2年生がカナダ修学旅行を実施し、国際交流を実現し、体験的な学習ができた。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニング型授業で必要な教員のファシリテーターとしての能力を向上させる。 ・体験型学習の中には、専門家からしっかり指導してもらうことで効果を高めるものがあるため、内容に応じて活用していく。 ・体験型学習、参加型学習、問題解決的な学習を計画的に実施する。
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①教科等横断的な学習プログラムのなかで教員が実際にアクティブラーニング型の授業に取り組む。</p> <p>②外部講師を招いて英語集中研修、立居振舞講座、コミュニケーション講座等を実施する。</p> <p>【中等部】</p>

<p>①キャリア教育プログラム（コミュニケーションプログラム）、ESDプログラム（SDGs学習プログラム、人権教育プログラム）で参加型学習を実施する。</p> <p>②英語教育・国際理解教育プログラム（カナダ研修旅行）、ESDプログラム（国際学習プログラム、鎌倉学習プログラム）で体験型学習を実施する。</p> <p>【高等部】</p> <p>①キャリア教育プログラム（コミュニケーションプログラム）、ESDプログラム（SDGs学習プログラム）で参加型学習を実施する。</p> <p>②英語教育・国際理解教育プログラム（Tokyo Global Gatewayでの英語体験、カナダ修学旅行等）、キャリア教育プログラム（職業体験）で体験型学習を実施する。</p> <p>③ESDプログラム（鎌倉プロジェクト、SDGsアクションプラン）で問題解決的学習を実施する。</p>

3-③	・発問、板書、指名など、各教員の指導性が各教科の授業において適切に発揮されているか。
2019年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①授業力向上のために、教員がファシリテーターとしての役割を果たすような授業を経験する。</p> <p>②授業向上のために、各教員の指導技術の向上に取り組む。</p> <p>③生徒の基礎力と思考力を向上させるために、授業改善に取り組む。</p> <p>【中等部】</p> <p>①生徒の思考に合わせた発問を投げかけることで思考力を育てる。</p> <p>【高等部】</p> <p>①「閉じた発問」ではなく「開いた発問」を投げかけることで思考力を育てる。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <p>・机の配列の工夫や図書室や情報処理室、マルチメディアラウンジの活用など、授業内容の目的に応じて柔軟な取り組みを行い、生徒の学習への関わりを強化することができた。</p> <p>・電子黒板やタブレット型端末を活用することで、知識習得中心の授業からの脱却を図り、生徒一人ひとりの学習意欲の向上に努めた。</p> <p>【中等部】</p> <p>・生徒自らが疑問をもつよう、教材や教具を工夫することができた。</p> <p>・授業のねらいを明確にすることや、発問に対する生徒の応答をあらかじめ予測することで思考力を深められた。</p> <p>【高等部】</p> <p>・話し方（説明・発表）や話し合いの進め方の指導を行うことで、生徒の思考力を深められた。</p> <p>・個人やグループの発言の取り上げ方を工夫することで、発言を全体で共有したり、ノートにまとめさせたりすることで、生徒の思考力を深められた。</p>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <p>・生徒の学力向上を目指し、組織的に授業力向上に取り組む。</p> <p>・授業者として必要な個々の指導技術を向上させる。</p>
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①「知識・技能」の定着とともに、「思考力・判断力・表現力」を育成する授業方法に取り組む。</p> <p>②授業中における「説明」「指示」「発問」「評価」の言語コミュニケーションスキルを向上させる。</p>

3-④	・個別指導や習熟度に応じた指導、補充的な学習や発展的な学習など、個に応じた指導が適切に行われているか。
2019年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①授業以外の補充的な学習により、生徒の学習習慣を確立し学力向上を図る。</p> <p>②講演会の実施により、生徒の進路、学習に対するモチベーション向上を図る。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期末に成績不振の生徒に対する補習を行い、学力の底上げを行った。 ・夏期講習と冬期講習を実施することにより、発展的な学習を行った。 ・キャリア講演会を実施し、課題や将来の進路について考える機会が得られた。 <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平日放課後に特進講習を実施し、基礎学力の定着に努めた。 ・予備校講師によるの進学講演会を実施し、高等部進学に向けて学習に対するモチベーションを向上させることができた。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平日放課後に特別講習と特進講習を実施し、大学入試に向けた発展的な学習を行った。 ・大学進学に向けて予備校主催の夏期講習とDVD授業を実施し、大学入試に向けた発展的な学習を行った。 ・高等部1年生には特進補習を実施し、学力の底上げを行った。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2（2020）年から授業が7校時までになるため、放課後、補充的な学習、発展的な学習を行う時間の確保を検討する必要がある。 ・プログレスコースの生徒と国際教養コースの生徒ではニーズが異なる事が予想される。 ・コースが分かれているため、クラスがある程度習熟度別になっているはずだが、学力の差が大きいクラスもある。
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①補充的な学習として、中等部2・3年生とプログレスコースの中等部1年生と高等部1年生の希望者は毎月開催される土曜講習に参加する。 ②発展的な学習として、国際教養コースの中等部1年生と高等部1年生は毎月開催される土曜講習に参加する。 ③夏期講習や冬期講習では希望者に対して発展的な学習を実施する。 ④学力不振の生徒や希望した生徒に対して、適宜個別指導を実施したり、取り組むべき学習をアドバイスする。 <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①国際教養コースの中等部1年生は夏期講習や冬期講習で発展的な学習を実施する。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①予備校主催の夏期講習を実施し、大学入試に向けた発展的な学習を実施する。

3-⑤	・チーム・ティーチング指導などにおいて、教員間で適切な役割分担がなされているか。
2019年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①理科の実験・観察においては、安全を第一に教科担当の他に実験助手がつき、チーム・ティーチングで実験・観察指導にあたる。</p> <p>②英会話の授業では、各学年ともネイティブの教員に授業担当者がつき、授業の進度や生徒の理解度に合わせて、授業担当者がフォローに入るようにする。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <p>・理科の実験・観察においては、各班や個々の実験状況に応じて、実験助手がサポートすることにより、生徒が方法や手順を理解しながら時間内に実験を進めることができた。</p> <p>・英会話の授業では各学年ともネイティブの教員に授業担当者がつき、授業の進度や生徒の理解度に合わせて授業担当者がフォローした。</p>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <p>・理科実験、英会話の授業におけるチームティーチングは良い成果がでていたため、今後も同様の授業形態で行っていく。</p>
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①理科の実験・観察においては、安全を第一に教科担当の他に実験助手がつき、チーム・ティーチングで実験・観察指導にあたる。</p> <p>②英会話の授業では、各学年ともネイティブの教員に授業担当者がつき、授業の進度や生徒の理解度に合わせて、授業担当者がフォローに入るようにする。</p>

3-⑥	・視聴覚教材や教育機器、コンピュータや情報通信ネットワークを効果的に活用した授業が行われているか。
2019年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①動画コンテンツを利用して、生徒の学び直しや授業の予習・復習、各種検定の対策に利用する。</p> <p>②電子黒板やタブレット型端末等のICT機器を、各教員が授業で活用できるようになる。</p> <p>③電子黒板やタブレット型端末等の活用事例とその効果を教科で共有し、効果的な活用を推進する。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット型端末を活用することで、より動的で魅力ある授業を展開することができた。 ・タブレット型端末のマルチメディア機能や電子黒板を活用することによって、画像や動画、音声等が感覚に訴え、興味・関心や意欲を高める授業が行えた。 ・タブレット型端末を利用することで、抽象的な概念や思考の過程などを可視化することで理解の促進につなげることができた。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の学習内容との関連に留意しながら、系統的・体系的なカリキュラムを編成していくことが必要である。 ・日常的にタブレット型端末を活用する情報モラルの育成が必要である。
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①ICT教育の充実のために、令和2（2020）年度からICT担当者会を設置し、情報教育の推進と情報機器の管理・運用に組織的に取り組む。</p> <p>②動画コンテンツを利用して、生徒の学び直しや授業の予習・復習、各種検定の対策に取り組む。</p> <p>③各教員のICT活用指導力の向上のために、電子黒板やタブレット型端末等のICT機器の効果的な活用を推進する。</p> <p>④新型コロナウイルス感染予防のための臨時休業中に、生徒の学びを止めないために、「Classi」や学校ホームページを活用した課題提示やMicrosoftのTeamsを活用した学級活動やオンライン授業を実施する。</p>

3-⑦	・学校図書館の計画的利用や、読書活動の推進に取り組んでいるか。
2019年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①新入生にオリエンテーション、図書室利用ガイダンスを行う。</p> <p>②新着図書の案内を行う。</p> <p>③学級文庫を設置する。</p> <p>④授業利用のサービスを行う。</p> <p>⑤通常の図書館業務（貸出・返却・レファレンス）を行う。</p> <p>【中等部】</p> <p>①週1回国語の授業を「読書の時間」として、図書室で授業を行う。中等部3年次特進クラスは、1年をかけて卒業論文を作成する。</p> <p>②読書の時間以外の授業利用のサービスを行う。</p> <p>【高等部】</p> <p>①授業の課題解決のために調査に来た生徒のサポートを行う。</p> <p>②授業で利用する資料を、担当教諭と選択し、教室へ貸し出す。</p> <p>③おすすめ新書リストなど、担任などの依頼で作成する。毎日、新聞のコラムをコピーして学年に渡す。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生オリエンテーションは中等部は完全に行えたが、高等部のオリエンテーションは一部、クラスによって情報が統一されていないものがあった。 ・新着図書の案内、学級文庫の設置、授業利用のサービス、通常の図書館サービスは目標どおり行えた。 <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読書の時間」は、各学年において目標どおり行えた。1年生はPOP作り・読み聞かせ・読書感想文（原稿用紙の使い方）など。2年生は本の帯作り、本の紹介5分間スピーチ、ブックカタログ作りなど。3年生（進学コース）は、普段読まない「名作」を2冊ひたすら読む活動、「食」についてのレポート作成、紙芝居作りなど。各学年とも図書室や本を使った活動を通して、情報を集め、整理し、発表するという活動を行った。 ・3年生（特進コース）の卒業論文は、自分でテーマを選び、資料を集め、まとめ、下書きし、手書きで清書するという活動を行った。テーマについて担当教諭と話し合い、相談し、自分のなかで考え、表現するという普段あまりしないことに1年間じっくり取り組んだ。テーマ発表や、完成後の最終発表など、プレゼンテーションのような活動も行った。 ・読書の時間・卒論以外の授業利用にも、適宜対応した。 ・休み時間や放課後の利用が少なかった。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業でのレポートや発表のために使う資料を調べに来た生徒に対応した。事前に担当教諭から相談があったため、適切に対応できた。 ・図書室の利用はしないが、教室で資料を使いたいという授業に対応した。事前に担当教諭と協力して、使用する資料の選別、持ち出し方法など相談し行った。資料を使用する際、可能なら教室などへ行き、資料の使い方など生徒に指導した。また発表の際は見学に行き、どのように情報をまとめたのかなど観察

	<p>できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員からの依頼で新書リストを作成したり、新聞のコラムの資料を作成したりした。生徒の積極的な図書室利用までには至らなかった。 ・国語科の夏の宿題などに対応した（該当図書を探しに来た生徒対応など）。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書室運営や図書室教育に組織的、計画的に取り組む必要がある。 ・新入生オリエンテーションや利用ガイダンスなどは、情報を統一するため、まとまった時間をとって図書室で行う方が適切である。また実際に図書室に来ることにより、4月の時点で図書室利用や蔵書に対する興味を持たせたい。 ・休み時間・放課後の利用を増やすため、おすすめ本などの紹介を今まで以上に行う必要がある。 <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書の時間と朝読がなくなるため、本に触れる機会が減少すると思われる。学級文庫を設置し、普段から本が身近にある環境を意識して作りたい。 ・国語以外の授業における利用を増やすように各教科に働きかける。“文学”以外にも興味深い本は各分野にあることなど、図書室の魅力を発信する。総合的な学習の時間などで利用されるように働きかける。他学年と重なる場合は、ブックトラックでの本の貸出を行う。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、授業への協力、生徒の調べ学習へのサポートなどを行う。 ・新着新書案内も引き続き毎月作成し、クラスへ掲示してもらう。 ・貸出利用数は減少しているが、楽しむ読書よりは、学習に役立つ図書室の利用の仕方を提案していく。
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 図書室教育を組織的に推進するために、令和2（2020）年度から図書室担当者会を設置し、図書室全体計画の作成・運営・改善に取り組む。 ② 読書活動の推進として、新入生に対して図書室ガイダンスを行ったり、新着本案内の掲示を行ったりする。 <p>【中等部】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 休み時間・放課後など、身近に利用できる図書室としてサービスし、展示方法を工夫する。 ② 各教科の授業や道徳、総合的な時間と連携した図書室運営を行う。 <p>【高等部】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各教科の授業や総合的な探求の時間と連携した図書室運営を行う。 ② 新着新書案内のほかに、分野ごとの本の紹介など工夫して行う。

3-⑧	・学校行事、委員会活動などが、適切な管理体制の下に実施されているか。
2019年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①委員会全体について活動内容を見直し、委員会の再編成を検討する。</p> <p>②学級委員会では、学校行事の一部を委員会で企画・運営を行う。</p> <p>③保健体育委員会では、体育祭を含む保健体育関係の活動の運営・補佐を行う。</p> <p>④美化委員会では、校内及び周辺の美化活動を統括する。</p> <p>⑤ボランティア委員会では、各種募金活動やボランティア活動を統括する。</p> <p>⑥みどり祭実行委員会、合唱コンクール実行委員会、卒業生を送る会実行委員会の各実行委員会では、それぞれの行事の企画・運営を行う。</p> <p>⑦学校行事の体験や運営を通して、思考力や実践力を身に付け、感動や達成感が味わえるようにする。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常任委員会（学級委員会、保健体育委員会、美化委員会、ボランティア委員会）の前後期制を継続させ、活動期間を長く設定することで、生徒が主体的に活動しやすい体制とした。 ・各委員会でランチミーティングを行うなど、限られた時間のなかで有意義に委員会活動を行った。 ・学級委員会では、新入生歓迎会（4月18日）、みどり祭でも企画・運営を行った。また、委員の発案でスタートした校門での朝の挨拶運動を定着させた。 ・保健体育委員会では、健康診断の準備、片付け（4月17日）、体育祭（5月16日）を実施した。また、次年度に向けて体育祭の企画を練った。 ・美化委員会では、校内や学校周辺の美化に努めた。また、ごみの分別講習会を行い、正しい分別の仕方をクラスに還元した。環境美化の意識向上を図った。 ・ボランティア委員会では、赤い羽根共同募金、緑の募金の校内募金運動への参加、使い捨てコンタクトレンズ空ケース回収運動に参加した。 ・各実行委員会では、9月14・15日みどり祭、10月3日合唱コンクール、2月20日卒業生を送る会を実施し、成功させた。各実行委員が担当教員と連携を図りつつ、リーダーシップをとることで、生徒主体の企画が充実した。自主性や積極性を発揮し、得意分野を様々な形で表現する生徒が増えた。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会の連絡事項は事前に「Classi」を活用し、生徒が集まる回数を少なくしてより効率よく運営できるよう検討する。
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①体育祭・みどり祭・合唱コンクール等の学校行事や生徒の委員会活動を適切に指導するために、令和2（2020）年度から校友会担当者会を設置し、組織的に取り組む。</p> <p>②生徒の実践力の向上を目的に、学校行事や委員会指導に計画的に取り組む。</p> <p>③学校行事、委員会活動などにおいて、生徒の安全を第一に考え、起こり得る危険を想定し、危機管理に努める。</p>

3-⑨	・部活動など教育課程外の活動が、適切な管理体制及び教職員全体の協力体制の下に実施されているか。
2019年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①「校友会に関する規定」「部活動の在り方に関する方針」に則った管理体制、活動方法で部活動を実施する。</p> <p>②事故未然防止のための工夫を行い、万が一の事故発生への対処を適切に行う。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「部活動の在り方に関する方針」に則り、部活動ごとに休養日を設け、学習面との両立を図りながら活動することができた。 ・部活動各部で作成している「事故防止のための安全対策」に基づき、安全や事故防止に配慮し、大きな事故なく部活動を行うことができた。 ・活動中は、できる限り顧問が直接監督できるように各顧問は意識した。特に運動部においては、会議など顧問不在のときには、活動内容を工夫し安全性の高いものに調整したり、活動自体を自粛するようにした。 ・年に3回行った施設等の安全点検や日々の点検において、施設や備品の不備や破損がないか定期的に確認を行い、施設課へ不具合を報告することができた。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週5日制や7時間授業の導入に伴う活動時間の減少に対して、短時間でより効率的な活動を行えるように、各部で計画的な活動を図る。
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①事故防止、事故発生時、事故後についての対策を事前に各部活動で「事故防止のための安全対策」にまとめることにより、事故を未然に防ぐ工夫をし、万が一事故が発生した場合においても速やかに安全対策や応急処置ができる準備を整える。</p> <p>②計画的な活動を実現するために「部活動の在り方に関する方針」に則り、各部活動で、活動計画、予算計画を作成する。また、活動時間、活動場所、活動内容を定める。</p> <p>③部活動を教育活動の一環と捉え、生徒の思考力・実践力を育むための指導に取り組む。</p> <p>④必要な場合は、顧問だけでなく、他の教職員も部活動の指導に協力する。</p>

3-⑩	<ul style="list-style-type: none"> ・併設校3部の連携・協力のための取組がなされているか。 ・幼稚部との連携に関する取組がなされているか。また、小中連携、中高連携など学校間の円滑な接続を図るための取組が行われているか。
2019年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①幼稚部、初等部、中・高等部においては、行事や授業等の機会を通して可能な範囲で連携しつつ教育活動を推進する。</p> <p>②併設校相互の連携を図るために、定期的に三部長会を開催する。</p> <p>【中等部】</p> <p>①幼稚部と中等部では、みどり祭の補助をはじめ、家庭科の授業において連携を図る。</p> <p>②初等部と中等部では、入試広報関係を強化し、初等部に中等部の教育活動をより詳しく知ってもらうための企画を実施する他、授業においても連携を図る。</p> <p>③初等部、中等部では、中等部に進学する児童を対象に算数講座を実施することで、入学後の学習に躓くことのないよう基礎学力の定着を図る。</p> <p>④中等部では、高等部進学者を対象にガイダンスを実施することで、学習意識を高め、早い段階で高等部に向けた学習準備に取り組ませる。</p> <p>【高等部】</p> <p>①幼稚部と高等部では、キャリア教育の一環として職業体験を行う。</p> <p>②中等部と高等部では、それぞれの発達段階を踏まえ、教科において中等部での学びが高等部につながるように配慮するとともに、校友会活動や各行事においても学年ごとの役割をもたせたうえで上級学年につなげる。</p>
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・併設校3部では可能な範囲で、連携をとることができた。 <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部との連携では、中等部2年生を対象に、家庭科の保育内容を実践的に学ぶための園児とのふれあい体験を実施した。 ・初等部との連携では、中等部に進学する児童を対象に、入学後の学習に躓くことのないよう算数講座を実施した。 ・初等部との連携では、入試広報担当者による教員向けの説明会及び保護者向けの説明会を実施した。 ・初等部との連携では、中等部1年生担当教員と初等部6年生担当教員との間で中等部1年次に進学する生徒に関する申し送りの機会を設けた。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部との連携では、希望生徒及び本学進学者の授業では職業体験を行った。 ・中等部との連携では、学習習慣の確立と基礎学力の定着を目指し、学齢に応じた学習の取り組みを行うことで、高等部の学習にスムーズに移行することができた。 ・総合学習「KBP（Kamakura Beyond Project）」では、高等部2年生から中等部2年生までを縦割りにした起業家教育のなかで、高等部2年生をトップに組織を編制し、学齢に応じた役割分担で活動を行った。その結果、下級生は上級生の活動を間近に見ることで、組織の運営を理解し成長することができた。

今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部との連携では相互の交流ができる機会を設ける。 ・初等部の児童・保護者に中・高等部の教育活動を知ってもらう機会を増やす。
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①令和2（2020）年度以降、併設校3部の連携を図るために、みどり祭を同日に開催する。 ②併設校相互の連携を図るために、定期的に三部長会を開催する。 ③中高一貫教育を目指し、学習活動は6年間を意識して指導に取り組み、また、校友会の部活動や委員会活動、各種行事は中・高等部合同で実施する。 <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①初等部の保護者・児童に対して、中等部の教育活動を知ってもらうために、学校説明会等を開催する。 ②中等部の学習にスムーズに入れるように、中等部に進学する初等部の児童を対象に、中等部の数学科教員が算数講座を実施する。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①キャリア教育プログラムの一環として、生徒が幼稚部で職業体験を実施する。

3-⑪	<p>・大学（鎌倉女子大学・鎌倉女子大学大学院・鎌倉女子大学短期大学部）との連携に関する取組がなされているか。</p>
2019年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①教育実習、教職実践演習フィールドワーク等において大学との連携を図る。</p> <p>②みどり祭において大学の学友会と中等部・高等部の校友会との連携を図る。</p> <p>【高等部】</p> <p>①高等部では、鎌倉女子大学に進学を希望する生徒のための高大連携講座や進学決定者の申し送りを通して円滑な接続を図る。</p>
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <p>・教育実習、教職実践演習フィールドワークにおいては、予定どおり連携することができた。</p> <p>・大学のみどり祭においては、マーチングバンド部とフェアリーコンサート部が演奏・演技を披露した他、中・高等部のみどり祭では、フラダンス等幾つかの学友会が演奏・演技を披露し、会場を盛り上げた。</p> <p>【高等部】</p> <p>・高等部3年生を対象に高大連携講座を行うことができた。また、鎌倉女子大学へ進学する生徒に関して、大学の各学部教員に申し送りを行った。</p>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <p>・教育実習における学生の評価については、大学側と情報を共有し、報告をする過程を通して、より連携を図っていく。</p> <p>・みどり祭での交流は引き続き学友会と調整して継続していく。</p> <p>【高等部】</p> <p>・高大連携講座では、大学の教育に触れる機会を通して、大学で学ぶ意欲を持たせていきたい。</p>
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①教育実習、教職実践演習フィールドワーク等の円滑な実施のために大学と連携する。</p> <p>②みどり祭において大学の学友会と中等部・高等部の校友会との連携を図る。</p> <p>【高等部】</p> <p>①鎌倉女子大学に進学を希望する生徒のための高大連携講座や進学決定者の申し送りを通して円滑な接続を図る。</p>

4. キャリア教育（進路指導）

<p>4-①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中等部・高等部全体として組織的にキャリア教育（進路指導）に取り組んでいるか。 ・ 生徒の適切な勤労観・職業観の形成や社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力・態度を育成するための体系的・系統的な指導が行われているか。 ・ また、職場体験や就業体験が適切に実施されているか。
<p>2019年度の 取組目標</p>	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 生徒が様々なことに興味・関心を持ち、学校生活の中で自分の役割を果たしながら、PDCAサイクルを行うことで、自分らしい生き方を実現するための基礎力を身に付ける。 ② 働く女性のロールモデルを意識し、大学における学びとの関係性や、その土台となる中学・高校における学びとの関係性を理解する。 ③ 保育・幼児教育体験や看護体験や職場体験などに参加し、職業との適正や必要とされる知識やスキルを理解する。 <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 生徒が所属集団のなかで、自己理解・他者理解を通じてどのような役割を担うことができるか学校生活の中で発見し、意識する。 ② 学ぶことや働くことの意義を理解し、学ぶ意欲を高め、向上心を持って学校生活と学習に取り組む。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学校や社会で自分の果たす役割を自覚し、学校生活の中で積極的に役割を果たし、生きがいややりがいなど自分を生かせる進路を現実的に考える。 ② 将来設計や進路希望の実現を目指して、向上心を持って学校生活と学習に取り組む。 ③ 職業体験を生かし、職業との適正や社会に対する興味・関心を高め、自分に適する進路選択をする。
<p>目標に対する 取組内容 と成果</p>	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進路ガイダンスでは、学校行事、学年・学級活動などを通じて、生徒が様々なことに積極的に挑戦すること、興味・関心を高め、自己の可能性を拡大することの大切さを伝えている。様々な取り組みについて、Portfolioを活用し、PDCAサイクルのため、振り返りを行うことで、自身の適正を考え、自分らしい生き方を模索するように指導している。 ・ コミュニケーション講座やエンカウンター講座などでコミュニケーション能力の向上を図り、キャリア講演会では働く女性のロールモデルを聞き、自己の適正や役割、将来設計などを考えた。 ・ 保育・幼児教育体験、看護体験、インターンシップなどに参加した。 <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の学校生活での活動、学級指導の中の班活動等などにおいて、活動後の振り返りを通じて、生徒自身の役割と自らの強みを発見できるように取り組み、自分の強みを生かした活動ができるようになった。 ・ 校外学習、コミュニケーション講座やエンカウンター講座、キャリア講演会などから、授業とは異なる特別な経験を得ることができた。また、学校行事等に

	<p>も多くの生徒が積極的に関わり、経験から様々なことに興味・関心を持つことができ、学習にも良い影響を与えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中等部2年生は家庭科の授業で幼稚部と連携し、幼稚部での授業体験を行った。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーション講座やエンカウンター講座、キャリア講演会、進路ガイダンス等を通じて、自己の適正ややりがい、強みなどを意識して、積極的に学校行事、学年・学級活動、部活動、総合学習、職業体験等に参加する生徒が増えた。 ・ 校内大学合同説明会、校外大学合同説明会、オープンキャンパス参加など、大学研究を行う機会をつくったことで、大学受験や進路決定で安易な選択を行う生徒は減少し、目標を持って進路選択をする生徒が増えている。 ・ 職業体験を通じて、実習ノートによって振り返りを行い、自己の適正を確認し、やりがいを感じ、進路選択をすることができている。
<p>今後の課題</p>	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア教育を6年間の視点で推進する。 ・ キャリア教育の各資質・能力を計画的に育成する。 ・ 自己の特性・適正を生かす進路選択ができ、その進路選択が実現できるように、生徒が授業や学習へと向かうよう取り組みたい。
<p>2020年度の 取組目標</p>	<p>【中・高共通】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① キャリア教育を組織的に推進するために、令和2（2020）年度からキャリア教育担当者会を設置し、キャリア教育プログラムの作成・運営・改善に取り組む。 ② 人間関係形成・社会形成能力の育成のために、キャリア教育プログラムの一環として、コミュニケーションプログラムを実施する。 ③ キャリアプランニング能力、課題対応能力の育成のために、キャリア教育プログラムの一環として、ロールモデル発見プログラムを実施する。 <p>【高等部】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① キャリアプランニング能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力の育成のために、キャリア教育プログラムの一環として、職業体験を実施する。

4-②	<p>・生徒一人ひとりの理解を深めるために必要な資料や、進路情報が適切に収集され、活用されているとともに、進路相談（キャリア・カウンセリング）が適切に実施されているか。また、キャリア教育（進路指導）のための施設設備が整備されているか。</p>
2019年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①二者面談や三者面談などを通し、生徒の学校の成績、模擬試験の成績等の個人の入学以来の成績の推移をデジタル情報で提示し、進路相談に生かす。</p> <p>②模擬試験による学力情報の収集と学習スキルの把握をし、帳票返却による学習スキルに関するPDCAサイクル指導を行う。</p> <p>【中等部】</p> <p>①新テストに向け、進路ガイダンスを実施し、生徒が学校生活、学習に向けて努力するよう指導する。</p> <p>【高等部】</p> <p>①大学受験情報等、進路指導に関する情報を提供し、進路意識を高める。</p> <p>②進路ガイダンス等で生徒に新テストの動向等、適切で有用な情報を提供する。</p>
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <p>・iPadと「Classi」の導入2年目で、定期試験、模擬試験の成績、学習時間等の情報が面談で提供することが容易となった。</p> <p>・進路ガイダンスでは、模擬試験の帳票の見方等を説明し、復習することの大切さを説明している。また、職員会議でベネッセ担当者から模試の帳票に関するガイダンス、ベネッセ・河合塾から高等部3年生の担任に出願検討会を実施した。</p> <p>【中等部】</p> <p>・各学年で進路ガイダンスを年に2回は行き、大学入試情報、学習方法等、学校生活や学習に努力することの大切さを伝えた。</p> <p>・進路相談室では中等部3年の受験等に関する進路相談を行った。</p> <p>【高等部】</p> <p>・各学年の進路ボードによる大学情報提供、『蛍雪時代』の特進・選抜クラスでの提示、赤本の貸出等を行い、進路意識を高めた。</p> <p>・1年生、2年生、3年生共に年4回の進路ガイダンスを行い、受験情報の提供や1年生の文理選択、高等部2年生では高等部3年生の受験を意識した科目選択、高等部3年生の受験情報等のガイダンスで進路意識の向上を図った。</p>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <p>・多様化する生徒のニーズに沿った進路指導、進路相談を実施する。</p> <p>【中等部】</p> <p>・高等部への進学に関して不安を持つ生徒への適切な対応が必要である。</p> <p>【高等部】</p> <p>・自分のキャリアについて、1年生から考える機会を設定する必要がある。</p>
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①個々の生徒の学力や学習の状況については、模擬試験の情報を適切に収集し、</p>

	<p>「Classi」の「生徒カルテ」にまとめ、個々の生徒の活動については、「Classi」の「eポートフォリオ」等で記録し、進路相談等で活用する。</p> <p>②計画的な進路指導を行うために、進路指導委員会が進路指導計画を作成し、各学年と連携して、個々の進路相談を実施する。</p> <p>③組織的な進路指導を行うために、進路ガイダンス、学習ガイダンスを実施する。</p> <p>④効果的な進路相談を行うために、進路相談室を整備し、大学受験情報等必要な資料を用意する。</p> <p>【中等部】</p> <p>①早い段階で高等部に向けた学習準備に取り組めるように、高等部へ進学する中等部の生徒を対象に、ガイダンスを実施する。</p> <p>【高等部】</p> <p>①生徒の大学進学への意識を高めるために、1年次に大学見学ツアー、大学合同説明会、1・2年次に校内大学合同説明会を実施する。</p>
--	--

5. 生徒指導

5-①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中・高全体で生徒の状況についての理解を共有し、生徒指導に取り組む体制が整備されているか。 ・ 自主的・自律的に行動でき、豊かな人間関係を構築でき、社会の一員としての意識を身に付けた生徒を育成するための指導を行っているか。
2019年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 計画的で一貫性のある生徒指導を実施するために、生徒指導計画を作成し、「生徒指導ハンドブック」を編集・発行する。 ② 全教職員が生徒状況の共有のため、職員会議で各学年の生徒状況を報告する。 ③ 社会性育成のため、日直・週番の指導、礼儀・挨拶の指導を計画・実施する。 ④ 「学校いじめ防止基本方針」に基づいて、全教職員でいじめ防止に取り組む。
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「生徒指導ハンドブック」を編集・発行し、生徒指導計画を掲載、職員会議において提示し、計画的で一貫性のある生徒指導指針とした。 ・ 職員会議において生徒状況の共有ができた。また、学年内でも学年会議等を通じて、情報共有ができ、生徒の指導・支援に役立てることができた。 ・ 日直・週番の指導を実施できた。また、バスの降車の際、多くの生徒が「ありがとうございました」と言っていることに対して地域の方からお褒めの言葉をいただいた。 ・ 「学校いじめ防止基本方針」に則って、組織的に対応することができた。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「生徒指導ハンドブック」の読み合わせができる機会を設け、全教職員で内容を確認し、一貫性のある指導を行う必要がある ・ 情報クラウドでの情報共有では、個人情報の取り扱いに留意が必要である。
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 計画的な生徒指導を行うために、生徒指導計画を作成する。また、「生徒指導ハンドブック」を編集・発行する。 ② 各教職員が生徒の状況を共有するために、職員会議で各学年の生徒状況を報告する。また、各学年で迅速で、足並みをそろえた対応が必要な場合には、生徒指導関連の連絡・共有事項を「Classi」を用いて伝達する。 ③ 計画的・組織的に豊かな人間性の育成に取り組むために、「心の教育プラン」を策定し、実施する。 ④ 自己内省を促すために、修養の鐘の指導、入学坐禅等を計画・実施する。 ⑤ 感性を育てるために、芸術鑑賞教室、全校コーラスを計画・実施する。 ⑥ 社会性を育てるために、日直・週番活動の指導、礼儀・挨拶の指導、立居振舞講座を計画・実施する。 ⑦ 「学校いじめ防止基本方針」を毎年度見直し、全教職員でいじめ防止に取り組む。

5-②	<p>・生徒指導のための教育相談が計画的に行われているとともに、スクールカウンセラー等との連携が効果的になされているか。</p>
2019年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①月例の教育相談委員会を実施し、学年や担任が苦慮している内容について、行動ベースの対応方法を、スクールカウンセラー・養護教諭・キャリアカウンセラーから提示した。</p> <p>【中等部】</p> <p>①個別案件だけでなく、学年の発達課題を考慮した、開発的カウンセリングに関する提案も行った。</p> <p>【高等部】</p> <p>①個別案件に加えて、キャリア発達課題を考慮した、キャリアカウンセリングに関する提案も行った。</p>
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月例の教育相談委員会を7月以外は実施することができた。 ・前年度までは学年主任のみの出席だったが、本年度は実際に苦慮している担任にも同席してもらうことができた。 ・事前に学年から情報提供してもらうことにより、スクールカウンセラー・養護教諭・キャリアカウンセラーから行動ベースの対応策を提示することができた。 <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年の発達課題に応じて、ピア・サポートのプログラムや構成的グループエンカウンタープログラムを提示し、実施できた。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア発達課題に関する案件の場合は、キャリアカウンセリングの内容を担当に提示したり、キャリアカウンセラーが直接、キャリアカウンセリングを実施することができた。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談委員会を定期的開催できるように、年間行事計画に会議日を設定する。 ・提示した対応策に対するフィードバック方法を構築する。 ・生徒指導委員会の下部組織に位置付けられていた教育相談委員会を令和2（2020）年度から、特別委員会として全教職員が関わることのできる独立した組織に改編する。 <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスの状況に応じた、ピア・サポートや構成的グループエンカウンタープログラムの提供方法を構築する。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の円滑な構築に資する担任支援方法を構築する。
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①個々の教育相談に適切に対応するために、スクールカウンセラーと連携した教</p>

	<p>育相談委員会を定期的を開催する。</p> <p>②生徒指導のための教育相談の場として、二者面談、三者面談を活用する。</p> <p>【中等部】</p> <p>①クラスや生徒の状況に応じて、帰りのSHRなどでも実施可能なピア・サポートや構成的グループエンカウターのプログラムを策定し、提供または実施する。</p> <p>【高等部】</p> <p>①人間関係構築に資するピア・サポート、構成的グループエンカウター、キャリアカウンセリングの技法を提供する。</p>
--	--

6. 保健管理

【中・高等部】 6-①	・法定の学校保健計画が作成され、生徒の保健管理、保健教育が適切に実施されているか。
2019年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①学校保健計画を作成する。</p> <p>②生徒の保健管理（薬物乱用防止、心のケア等）、保健指導・保健相談を適切に実施する。</p> <p>③日常の健康観察や、疾病予防、生徒の自己健康管理能力向上のための取り組み、健康診断を適切に実施する。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健室と各教科指導の連携により、学校保健計画を作成することができた。 ・職員室、保健室、教育相談室を中心に、保護者とも連携を取りながら保健指導、保健相談を行うことができた。 ・クラス担任、学年主任、教科担当者と保健室が連携して日常の健康観察や心のケアを行った。 ・年2回の体位測定、年初の健康診断など、適切に実施することができた。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任が放課後や休み時間等、生徒と関わることができる時間を十分に取れるよう、業務体系の改革・検討する機会を設ける。
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①学校保健計画を作成し、適切に実施する。</p> <p>②生徒の保健管理（薬物乱用防止、心のケア等を含む）、保健指導・保健相談を適切に実施する。</p> <p>③日常の健康観察や、疾病予防、生徒の自己健康管理能力向上のための取り組み、健康診断を適切に実施する。</p>

<p>【保健センター】 6-①</p>	<p>・法定の学校保健計画が作成され、生徒の保健管理、保健教育が適切に実施されているか。</p>
<p>2019年度の 取組目標</p>	<p>【中等部】 ①各教科、分掌と連携して学校保健計画を作成し、教職員で共有し、生徒の保健管理、保健教育、健康相談、保健室経営を適切に実施する。 【高等部】 ①各教科、分掌と連携して学校保健計画を作成し、適切に実施する。 ②健康診断を適切に実施し、保健指導や保健管理に努める。 ③生徒が自身の健康管理に意識を向けられるように、保健指導を実施する。</p>
<p>目標に対する 取組内容 と成果</p>	<p>【中等部】 ・各教科、分掌と連携して学校保健計画を作成し、全教職員で共有した。 ・健康診断と事後措置を適切に実施した。事前の資料や事後措置、保健だよりを活用し、生徒が自身の健康に関心を持ち、普段から健康管理に取り組む姿勢を持つことができるよう指導した。本年度の受診勧告数は73、受診率は前年度より1.5%上昇し、83.6%であった。 ・保健教育の充実のため、保健講話を計画した。1年生は、思春期に起こる心身の変化を理解し、自己の問題として捉えられること、3年生は、いのちの始まりと尊さを理解し自他を大切にすること、その存在を認められるようになることを目標に設定した。1年生は予定どおり実施できたが、3年生は新型コロナウイルス対応により、本年度は中止した。 【高等部】 ・関係職員と連携して学校保健計画を作成し、実施した。 ・健康情報や健康診断の結果をもとに、本人や保護者に必要な働きかけを行った。 ・保健講話では事前アンケートにより、生徒の実態に即した内容で実施できた。 ・予防接種の未接種者に対して個別指導を行い、各学年の接種率は入学時より増加した。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>【中等部】 ・新校舎への移転に伴い、救急体制の在り方や健康診断の実施、学校環境衛生の保持等、組織として対応がとれる学校保健計画を作成し、取り組む。 ・歯科の受診率は61.5%に留まり、軽度歯肉炎は50%と多くなっている。歯と口の健康について、指導方法を再検討する必要がある。 ・保健講話が予定どおり実施できない事態を想定して、代わりとなる臨時ほけんだよりをあらかじめ作成する等、対応策を検討する。 【高等部】 ・新学習指導要領に基づき、学校保健計画において保健教育の項目を作成する。 ・健康診断事後措置における受診率増加を目指す。 ・集団や個人への保健指導の充実を図る。</p>
<p>2020年度の 取組目標</p>	<p>【中等部】 ①緊急時対応の校内研修を開催し、演習を通して適切に実施できるようにする。食物アレルギーのある生徒について全教職員で情報を共有し、個別の取組プラ</p>

	<p>ンの作成、緊急時の体制づくりを行う。</p> <p>②歯と口の健康づくりを通して健康意識を高められるよう、保健指導の充実を図る。</p> <p>③3年生の講話を担当する鎌倉市の保健師及び助産師にも代替策について相談し、対応できるよう準備する。</p> <p>【高等部】</p> <p>①学校保健計画では、保健教育についての項目を示し、実施する。</p> <p>②全体への保健教育では、保健講話や行事と関連させた指導に取り組む。</p> <p>③個人への保健教育として、肥満ややせへの働きかけを年間を通して行う。</p> <p>④利用者の発生時間が家・数日前の件数を減らすために、普段の生活における予防に重点を置いた保健管理、保健指導に取り組む。</p>
--	--

7. 安全管理

7-①	<p>・法定の学校安全計画が作成され、適切に実施されているとともに、学校事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等が作成され、活用されているか。また、校舎や通学路等の安全点検や教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。</p>
2019年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①学校安全計画を作成し、教職員で共有し、適切に実施する。</p> <p>②「防災・防犯マニュアル」を作成し、教職員で共有し、適切に実施する。</p> <p>③学期の初めに年3回の校内安全点検を実施する。</p> <p>④登下校メールシステム・一斉メール配信システムを運用する。</p> <p>⑤避難訓練の運営協力・指導を行う。</p>
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校安全計画を作成し、それに則った教育活動を行うことができた。 ・「防災・防犯マニュアル」を改訂し、自然災害時の休校についての規定や大災害における生徒を保護者に引き渡す方法について検討し、令和2（2020）年度から実施できる準備が整った。 ・計画どおり年間3回、安全点検を実施することができた。その結果を施設管理課と共有し、修繕等が必要な個所について対応してもらうことができた。 ・一斉メール配信システムは校外行事の解散状況の連絡や台風等の自然災害時の休校の連絡等、適切に利用することができた。 ・避難訓練の運営協力は、初等・中等教育支援室の依頼に基づき、整列方法等を作成、指示、円滑な運営に貢献できた。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「防災・防犯マニュアル」を防災教育や防犯教育に活用するにあたり、利用方法について共通の指示をする。
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①学校安全計画を作成し、教職員で共有し、適切に実施する。</p> <p>②「防災・防犯マニュアル」を作成し、教職員及び全校生徒で共有し、適切に実施する。</p> <p>③校内安全点検を年間3回実施する。</p> <p>④登下校メールシステム・一斉メール配信システム（HAYABUSAメール）を運用する。</p> <p>⑤避難訓練の運営協力・指導を行う。</p>

7-②	・学校防災計画等が作成され、適切に実施されているか。
2019年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①防火・防災計画を整備した上で、有事における安全確保のための基本行動を周知させる。</p> <p>②各家庭にも災害時における基本行動の徹底を図る。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩瀬キャンパス全体の防災訓練を2回、防災訓練内で消火器取扱い訓練と屋内消火栓取扱い訓練を各1回行った。キャンパス全体の訓練については、消防署からの勧めがあり本年度から2回のうち1回を消防署の立ち会いのない自主訓練の形式で実施した。また、教職員対象の救命救急講座を1回実施した。 ・中・高等部独自の「防災・防犯マニュアル」を発行することにより、生徒だけではなく保護者に対しても、防災に関する基本行動や心構えの周知を行うことができた。 ・防災訓練後の備蓄食糧食事体験等を通して、生徒の災害時の食事に対する意識を高めた。 ・平成24（2012）年以来となる鎌倉市消防本部による立入検査を受け、適切に対応を行った。 ・岩瀬キャンパス全体で防火対象物点検・防災管理点検（法定点検）を実施し、行政機関への報告を行った。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面を想定し、併設校各部、総務部、施設管理部、管轄消防署と相談を行いながら、生徒や保護者も含めた有事に対応できるような活動を今後も継続する。 ・特定防火対象物のなかでも大規模建物に該当する岩瀬キャンパスにおいて、幼稚部、初等部と連携した安全行動や災害時用備蓄品の管理等を引き続き行っていく。
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有事における安全確保のための基本行動を周知させるため、引き続き防災訓練を実施する。 ・岩瀬キャンパス全体での防火対象物点検・防災管理点検（法定点検）を継続して実施し、行政機関への報告を行う。

8. 組織運営

8-①	<p>・部長（校長）など管理職は、適切にリーダーシップを発揮し、他の教職員から信頼を得ているか。</p>
2019年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①管理職は全教職員と適切なコミュニケーションを取るように努める。</p> <p>②管理職は各主任等を適切に指導・支援し、円滑な学校運営を実現する。</p> <p>③管理職は学校経営方針や新規の取組等の中・高等部の全教職員に提示し、実行に移せるように支援する。</p>
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月に部長と部長代理が目標設定面接を実施し、2月に部長が本年度の振り返りと次年度の業務などを内示する面接を実施した。また、部長が学校経営に関する情報伝達や研修の資料とするために、職員室だよりを年間37号発行した。 ・部長・部長代理が各主任等を指導し、新しいコースの設定、土曜日授業の廃止、校外行事の精選、KBP（Kamakura Beyond Project）の廃止、入試広報の改善、学習プログラムの作成、地域の行政やNPO等との連携等の学校改革に取り組んだ。また、生徒指導や保護者対応等の支援にあたり、様々な問題解決に取り組んだ。 ・部長が職員会議で、建学の精神に基づいた新しい学校教育目標と中期学校経営プランを文書にして提示し、さらに研修会を開催して周知を図った。また、「心の教育プラン」「学力向上プラン」「ESDプログラム」「英語教育・国際理解教育プログラム」「キャリア教育プログラム」を策定し、次年度以降、授業で使う学習案や校外学習実施計画の様式等を作成し、教員に提供した。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風通しの良い職場にしていくために、普段から様々な手段で教職員とのコミュニケーションをとるように努めるとともに、面接を計画的に実施する。 ・ミドルリーダを意図的・計画的に育成し、協働的な組織文化を構築する必要がある。 ・新任者や非常勤講師も含めた全教職員が学校経営方針を理解する必要がある。
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①管理職は全教職員と適切なコミュニケーションを取るように努める。</p> <p>②管理職は各主任等を適切に指導・支援し、新しい教育活動や学校運営を実現する。</p> <p>③管理職は組織としての成果をあげるために学校マネジメントを推進する。</p>

8-②	<p>・校務分掌や主任制が適切に機能するなど、組織的な運営・責任体制が整備されているとともに、職員会議等が学校運営において有効に機能しているか。</p>
2019年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①組織的に業務を遂行できる校内組織にするために、現行の校務分掌や組織を見直す。</p> <p>②新しい学校経営方針の周知徹底、学校運営の改善、情報の共有のために、管理職及び校務委員会の各主任が出席する運営会議を毎月開催する。</p> <p>③学校の教育方針、教育目標、教育計画、教育課題への対応等に関する教職員間の意思疎通、共通理解の促進のために、全教職員が出席する職員会議を毎月開催する。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <p>・校務分掌や学年の業務を細かく精査し、現行の「校務分掌一覧」を作成し、校内業務の状況を把握した。それをもとに、新しい教育活動や業務を追加し、更に業務量の適正化と業務の効率化を目指して校内組織を大幅に改編した。その上で、次年度の「校務分掌一覧」を作成した。</p> <p>・運営会議は計画的に開催することができ、新しい学校経営方針や業務改善について検討することができた。</p> <p>・職員会議の議題や提案資料はデジタルデータで共有し、教職員がタブレット型端末を活用することでペーパーレスとなり効率化が図れた。しかし、教職員の意見交換はやや消極的であった。</p>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <p>・主任等の責任と権限を明確にすることで、主任等のグループリーダーとしての役割を明確にし、更に課題解決力やマネジメント力を向上させる必要がある。</p> <p>・運営会議に企画立案した教職員が直接提案できるようにする。</p> <p>・職員会議でもっと教職員の意見交換ができるように運営を工夫する。</p>
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①校内組織の活性化のために、校務分掌や学年の主任等をミドルリーダーとして位置付けた新しい校内組織を運用する。</p> <p>②学校経営方針の周知徹底、学校運営の改善、情報の共有のために、管理職、校務委員会の各主任、提案者が出席する運営会議を毎月開催する。</p> <p>③学校の教育方針、教育目標、教育計画、教育課題への対応等に関する教員間の意思疎通、共通理解の促進、教職員の意見交換のために、全教職員が出席する職員会議を毎月開催する。</p>

8-③	<p>・各種文書や個人情報などの中等部・高等部が保有する情報が適切に管理されるとともに、情報の取り扱い方針が教職員に周知されているか。</p>
2019年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①入学時にすべての保護者から、個人情報の取り扱いについての同意書を提出してもらおう。</p> <p>②教職員に対し守秘義務の徹底を図ると共に、個人情報の取扱いは慎重かつ適正に行う。</p>
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の取り扱いについては、すべての保護者に理解が得られ、入学時には同意書がすべての保護者から提出された。 ・ホームページや学校案内に生徒の写真が掲載される場合には、生徒・保護者の同意を得たり、本人が特定されない配慮をしたりした。 ・個人所有の情報機器の使用禁止及び、デジタルデータの持ち出し禁止が守られている。 ・生徒の氏名、住所、成績等一切の個人情報は、教務部で一元管理されている。 ・不要となった個人情報記載の文書は、シュレッダーまたは溶解処理で確実に廃棄した。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の取り扱いについては、個人情報保護法の指針にのっとり、引き続き今後も管理の徹底に努める。
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①学校運営上必要な氏名、住所、電話番号、写真等の使用については保護者の理解に努め、必ずその使用についての同意書を全員から提出してもらおう。</p> <p>②個人情報の保管や不要なものの廃棄を適正、確実に行う。</p>

9. 研修（資質向上の取組）

9-①	<p>・全教員による授業研究会を行うことや、授業研究を継続的に実施することなどを通じ、授業改善に中等部・高等部全体で取り組んでいるか。</p>
2019年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①教員相互の授業を参観し、互いの授業について検討し、授業改善を図る。</p> <p>②生徒が「確かな学力」を身に付けられる授業の実践を図る。</p> <p>【中等部】</p> <p>①授業形態は従来の一方向的な「講義形式」から「自ら主体的に学ぶ授業」へと転換を図る。</p> <p>【高等部】</p> <p>①生徒が自ら主体的に学ぶ授業と、大学受験のための知識を身につける授業の両立を目指す。</p>
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <p>・5月と11月に授業研究週間を設定し、教員が相互に授業参観を行い、自らの授業改善に生かした。</p> <p>【中等部】</p> <p>・アクティブラーニングや実験・実習などによる、主体性を重視した授業が広がってきており、授業中の生徒の発言が多くなるなど成果が表れてきている。</p> <p>【高等部】</p> <p>・学年が上がるほど、基礎学力の定着よりも応用力の充実や知識の積み重ねが必要になるため、講義中心になる傾向がある。</p>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <p>・研究の質を向上させ、効率化するためには、組織的に授業研究に取り組む仕組みが必要である。</p> <p>・授業研究週間では、他教科の授業を参観する時に、どうしても教科の壁があるため、どの教科でも必要とする指導技術の向上を共通テーマに実施する。</p>
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①教科会を授業研究の場とし、「知識・技能」の定着とともに、「思考力・判断力・表現力」の育成を意識した授業方法や教材等をテーマに教科全員で共有する。</p> <p>②授業中における「説明」「指示」「発問」「評価」の言語コミュニケーションスキルを向上させることをテーマに、授業研究週間を実施する。</p>

9-②	・校内研修・校外研修の課題が適切に設定され、実施されているとともに、教職員が積極的に校内研修・校外研修に参加しているか。
2019年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①教員の資質向上や授業改善を中心に校内研修を実施する。</p> <p>②自身のスキルアップのため、積極的に校外の研修に参加する。</p> <p>【中等部】</p> <p>①生徒とのコミュニケーションスキルを向上させる。</p> <p>【高等部】</p> <p>①教科の受験指導力の向上を図り、受験科目の学力向上を目指す。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <p>・校内の研修会は、養護教諭によるエピペン講習、消防署による救命講習、部長による21世紀型能力の向上、ベネッセコーポレーションの講師による進路研究会の計4回開催し、現在の本校の課題に即した内容の研修ができた。</p> <p>・校外の研修会については、研修担当者が教職員に向けて「Classi」や朝の打合せでこまめに開催情報を伝え、校外の研修会への参加者は延べ46名であった。</p>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <p>・体験的な研修は集合研修が必要であるが、講義的な内容の研修は効率化を図るために、集合研修会以外の方法を考える必要である。</p> <p>・研修会場への移動時間や旅費などのコストを考慮すれば、各教職員が時間があるときに研修が行える無料のオンライン研修の活用へ発想を転換する必要がある。</p>
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①校内の研修については、新任研修会と本校の課題に即した研修会を開催する。また、パソコンや紙媒体を用いての研修資料の共有も推進する。</p> <p>②校外の研修については、研修担当者が案内を教職員に広報する。また、効率化を図り、個々の教職員のニーズに合った研修を受けるために、独立行政法人教職員支援機構のオンライン研修への参加を推進する。</p>

9-③	<p>・部長（校長）等の管理職が定期的に授業観察を行い、教員の指導の状況を的確に把握するとともに、教員に対して適切な指導・助言をしているか。また、指導が不適切な教員への対応が適切になされているか。</p>
2019年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①管理職は授業公開週間を中心に全教員の授業を観察し、評価を行い、授業改善のためのアドバイスをを行う。</p> <p>②管理職は人材育成や不祥事防止のために、全教職員に向けて指導や注意喚起を行う。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <p>・管理職は年2回の授業公開週間を中心に、個々の教員の授業を計画的に観察し、一人ひとりの教員へ授業についての評価やアドバイスをを行った。学力向上プランの中で、知識・理解とともに思考力の向上を重点取組にあげたが、知識・理解の育成に偏った授業が多く見られた。</p> <p>・部長は中等部1年生に人権教育の示範授業を実施したり、マネジメント力向上、授業力向上や不祥事防止の資料を連載した職員室だよりを発行したりした。また、管理職は課題がある教員に対して個々に指導した。</p>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <p>・管理職は授業観察とともに、それ以外の方法でも授業力向上の指導や支援に取り組む必要がある。</p> <p>・教職員の不祥事防止や学校運営能力の向上は計画的に継続した指導が必要である。</p>
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①管理職は授業公開週間を中心に全教員の授業を参観し、評価を行い、授業改善のためのアドバイスをを行う。</p> <p>②管理職は授業力向上のための研修資料の提示や指導を行う。</p> <p>③管理職は人材育成や不祥事防止のために、全教職員に向けて指導や注意喚起を行う。</p>

10. 保護者・地域社会等との連携

10-①	・保護者が中等部・高等部に協力できる体制（教育ボランティア等）を整えているか。
2019年度の 取組目標	【中・高共通】 ①保護者が行事等を通じて、学校運営に協力できる体制を整える。
目標に対する 取組内容 と成果	【中・高共通】 ・みどり祭では前年度に引き続き保護者の参加企画を募集し、協力していただいた保護者による自主的な活動が行われた。 ・体育祭では保護者参加種目を設定し、保護者の参加協力を促した。 ・体育祭・みどり祭・総合的な学習の時間における生徒の活動に保護者も参加していただき、大変協力的だった。 ・現在、教育ボランティア等は募集していない。
今後の課題	【中・高共通】 ・保護者が学校行事や生徒の活動に協力できるように、丁寧な広報活動を行う。 ・保護者と連携・協力できる内容を検討する担当を決めておく。
2020年度の 取組目標	【中・高共通】 ①保護者が学校行事や生徒の活動に協力しやすくなるように、丁寧な広報活動を行う。 ②保護者との連携・協力の窓口を設置する。

10-②	・学校公開を定期的に行っているか。
2019年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①授業参観（学校開放デー）や体育祭等の行事を通して、学校公開を定期的に行う。</p> <p>②保護者講座や保護者対象の立居振舞講座、みどり祭での保護者企画等を通して学校と保護者との連携を図る。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観日は、多くの保護者が来校しやすいように、曜日の設定や授業を自由に参観できるように工夫した。 ・体育祭では、保護者参加種目を設定することで、共に活動する場となった。 ・保護者講座は、保護者と教員が知識を広げつつ、楽しみながら実施できるよう内容を工夫し、円滑な交流の場として機能した。 ・みどり祭では保護者企画も実施することができ、共に活動する場となった。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者には、いつでも授業参観に来てもらいたいが、学年が上がるにつれて、来校しにくくなるため、定期的な授業参観日を設定する。 ・生徒の活動の様子や成果を見てもらうために、学校行事を保護者に公開する。 ・保護者に学校に気楽に足を運んでもらうために、保護者の学習の場を提供する。
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①保護者に授業中の様子を知ってもらうために、授業参観を実施する。</p> <p>②生徒の活動の様子や成果を見てもらうために、体育祭・合唱コンクール・みどり祭等の行事を保護者に公開する。</p> <p>③保護者へ学習の機会を提供するために、校内で保護者講座や立居振舞講座を開催する。</p>

10-③	<p>・生徒・保護者の中等部・高等部への満足度や要望を把握するための取組を行っているか。また、教育相談体制を整備し、生徒・保護者から寄せられた具体的な意見や要望に、適切に対応しているか。</p>
2019年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①スクールカウンセラーが中等部1年生・高等部1年生を対象に実施した全員面談の内容や、生徒や保護者から寄せられた教育相談的意見や要望については、養護教諭やスクールカウンセラーを通じて、教育相談委員会で共有する。</p> <p>【中等部】</p> <p>①中等部1・2年生の保護者を対象とした茶話会を計画し、保護者の要望や苦慮している事柄を把握する。</p> <p>【高等部】</p> <p>①二者面談や三者面談に、教育相談委員、キャリアカウンセラーとして同席し、生徒や保護者が苦慮していることの把握や、進路決定について苦慮していることを把握し対応する。</p>
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <p>・スクールカウンセラーによる中等部1年生、高等部1年生の全員面談内容、電話での相談、生徒との面談内容、養護教諭による生徒からの相談の聞き取り内容、各学年により把握している生徒や保護者の要望などを、教育相談委員会で共有し、必要に応じて行動ベースの対策を提示することができた。</p> <p>【中等部】</p> <p>・中等部2年生の保護者対象の茶話会を実施し、保護者の満足度や要望を把握する機会を設けた。</p> <p>【高等部】</p> <p>・二者面談や三者面談に同席し、生徒や保護者が苦慮していることを把握し、生徒とは継続的な面談を実施し、保護者の苦慮は、教育相談委員会で情報共有し対応できた。</p>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <p>・教員はアンテナを高くし、様々な機会ですべて生徒・保護者のニーズや悩み等を把握する。</p> <p>・深刻な教育相談については、一人の教職員で対応するのではなく、必ず組織的に対応する。</p>
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①保護者の教育活動についての満足度や要望を把握するために、日常のコミュニケーションを大事にするとともに、保護者会、校友会保護者会、三者面談を実施する。</p> <p>②生徒の教育活動についての満足度や要望を把握するために、日常のコミュニケーションを大事にするとともに、生徒アンケート、二者面談を実施する。</p> <p>③個々の教育相談に適切に対応するために、令和2（2020）年度から教育相談委員会を特別委員会として位置づけ、スクールカウンセラーと連携して組織的、計画的に活動する。</p> <p>④教育相談への生徒の理解を深めるために、スクールカウンセラーによる中等部1年生、高等部1年生への全員面談を実施する。</p>

10-④	・学校便りや学級便りの発行など、保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか。
2019年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①保護者と学校の良い信頼関係を構築していくために、定期的に情報の伝達・公開を行う。</p> <p>【中等部】</p> <p>①保護者に学年・学級の取り組みがよく伝わるような学年だよりを発行する。</p> <p>【高等部】</p> <p>①保護者・生徒に進路情報等が発信できるような学年だよりを発行する。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <p>・学園全体の広報誌「学園だより」、機関誌「緑苑」、生徒指導部からの「生徒指導部だより」、保健室からの「保健だより」、相談室からの「相談室だより」等を通じて、行事予定、生徒の学校での活動の様子、進学、キャリアの情報、生徒指導上で留意すべき事柄等の情報を定期的に様々な形で提供した。</p> <p>【中等部】</p> <p>・学年だよりの作成について、ほとんどの月で発行できた。</p> <p>【高等部】</p> <p>・発行者を輪番制にすることで、学年だよりを毎月発行することができた。</p>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <p>・情報量が多いものは印刷広報物で配付するが、生徒を経由するために保護者に伝わらない場合もある。そこで、一斉配信メール（HAYABUSAメール）を併用する。</p> <p>・「Classi」は通信障害が起きる可能性もあるため、学校ホームページを併用する。</p>
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①保護者と学校との友好的な協力関係を築くために、印刷広報物（学園だより、学年だより、各種案内等）、web（学校ホームページ、一斉メール配信システム（HAYABUSAメール）、Classi）のそれぞれの媒体の特性を生かした学校広報活動に取り組む。</p> <p>②対面しての情報伝達のために、保護者会、研修旅行説明会等を開催する。</p> <p>③生徒の活躍を伝えるために、部活動の大きな大会での成果を垂れ幕で表示する。</p>

10-⑤	・地域の自然や文化財、伝統行事などの教育資源が活用されているか。
2019年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①地域社会との連携を強めるため、教育資源を有効に活用する。</p> <p>【中等部】</p> <p>①総合的な学習の時間や校外学習の時間を利用し、鎌倉の自然や文化財に触れる機会を積極的に増やし活動する。</p> <p>【高等部】</p> <p>①「赤い羽根」等のボランティア活動を通じて地域社会との連携を深める。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <p>・鎌倉の文化に触れ合う取組はできた。</p> <p>【中等部】</p> <p>・1・2年生は、校外学習を通じて鎌倉の神社、仏閣について事前学習をした上で、グループ活動を実施した。</p> <p>【高等部】</p> <p>・赤い羽根募金等に意欲的に協力し、各クラスの委員を中心に積極的に活動した。</p>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <p>・地域性を生かすために、地元の組織や身近な施設をもっと活用する。</p> <p>【中等部】</p> <p>・地域の文化や自然について学習する機会を設定する。</p> <p>【高等部】</p> <p>・地域をフィールドとした課題解決的な学習を実施する。</p>
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①地域のNPOや行政と協働して、地域の自然、文化財、SDGsの取組についての情報交換を行う。</p> <p>【中等部】</p> <p>①ESDプログラムの一環として、1・3年生は鎌倉の自然保護、2年生は鎌倉国宝館で文化財保護の体験学習を実施する。</p> <p>②ESDプログラムの一環として、2年生は本郷台にある県立地球市民かながわぷらざで体験学習を実施する。</p> <p>【高等部】</p> <p>①ESDプログラムの一環として、地域のNPOと協働して、鎌倉の各地の課題を解決するための方策を考える鎌倉プロジェクトを実施する。</p>

11. 入試・広報活動（情報提供）

11-①	<p>・ 中等部・高等部の教育活動について、説明会の実施、学校案内の配布、ホームページの活用など、多様な媒体を用いてわかりやすく、かつ適切な分量で提供されているか。また、生徒等の個人情報の保護と積極的な情報提供とのバランスに配慮しているか。</p>
2019年度の取組目標	<p>【中・高共通】 ①説明会参加者増を目指し、多様な広告媒体を用いた募集活動を行う。</p> <p>【中等部】 ①説明会延べ来校者人数300人(前年度271名)を目指して、募集活動を行う。</p> <p>【高等部】 ①説明会延べ来校者人数650人(前年度604名)を目指して、募集活動を行う。</p>
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページへのアクセス数は101,678件あった。また、中学校や塾への資料送付、校外と校内での学校説明会の開催、塾訪問751回、中学校訪問273回などの広報活動を全教職員で取り組んだ。 ・ 受験生の個人情報については入試広報主任が一括で管理し、安全かつ適切な活用を行うことができた。 <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 説明会の延べ来校者人数は336名で本年度の目標を達成することができた。 ・ 塾訪問を強化するとともに、中高一貫校受験生のための模擬試験会場でチラシ配布や学校紹介を積極的に行ったことで説明会来校者を増加させることができた。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 説明会の延べ来校者人数は658名で本年度の目標を達成することができた。 ・ 近隣中学校女子生徒対象のチラシ配布や、6月に新たに追加した全教職員学校訪問など新しい取り組みによって説明会来校者を増加させることができた。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内で開催する学校説明会の事前準備と来校者データの充実を図るために、学校説明会を予約制にする。 ・ 令和2（2020）年度から始まる新しいコースの状況と令和3（2021）年度の新校舎移転等を積極的にアピールしていく。
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学校ホームページにタイムリーに情報を掲載し、アクセス数の増加を目指す。 ②パンフレット、ポスターを始め、様々な広告媒体を用いて広報活動に取り組む。 ③収集した受験生の個人情報の保護を徹底するために、個人情報を取り扱う担当者を限定する。 <p>【中等部】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①多くの受験生・保護者に本校の教育内容等を理解してもらうために、学校説明会への参加者の増加を目指す。

	<p>②塾を通して多くの受験生・保護者に本校の情報を提供してもらうために、塾訪問回数750回を目指す。</p> <p>【高等部】</p> <p>①多くの受験生・保護者に本校の教育内容等を理解してもらうために、学校説明会への参加者の増加を目指す。</p> <p>②中学校を通して多くの受験生・保護者に本校の情報を提供してもらうために、中学校訪問は400件を目指す。</p>
--	---

11-②	・ 中・高等部の募集力向上における支援が適切に行われているか。
2019年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①中・高等部入試広報担当教員の業務補佐と支援の充実を図る。</p> <p>②募集人員充足に向け、学校案内制作、ホームページの運用、他校入試・広報関連の情報収集等の支援活動を行う。</p> <p>【中等部】</p> <p>①募集人員充足に向け、学習塾訪問頻度向上等の支援活動を行う。</p> <p>【高等部】</p> <p>②募集人員充足に向け、近隣中学校・学習塾訪問頻度向上等の支援活動を行う。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <p>・学校案内、ポスター制作の支援を行った。入試広報担当教員と制作業者とをつなぐ役割として、学園として求められているものや中等部・高等部が目指す教育方針や教育方法について、制作業者と共有し、より良い提案を引き出せるよう配慮した。</p> <p>・経営戦略委員会開催における資料作成のサポートを行った。</p> <p>【中等部】</p> <p>・初等・中等教育統括部長の塾訪問の予定を共有し、資料等の準備をサポートした。効率的・効果的な訪問が可能となるよう、学内の事務手続きを補佐し、統括部長の事務負担を軽減した。</p> <p>・大手塾の模擬試験会場として施設貸出の窓口となった。岩瀬キャンパスで計6回実施し模擬試験受験生を受け入れた。女子中学生に対する広報を行うことができた。</p> <p>【高等部】</p> <p>・初等・中等教育統括部長の中学校訪問や塾訪問の予定を共有し、資料等の準備をサポートした。効率的・効果的な訪問が可能となるよう、学内の事務手続きを補佐し、統括部長の事務負担を軽減した。</p>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <p>・令和2（2020）年度より、塾や中学校等学外の広報活動は初等・中等教育統括部長、それ以外の業務は各部広報での担当となる。中・高等部の募集定員の充足に向け、今後も支援室内においても中・高等部教職員の募集活動の支援充実に努めたい。</p> <p>・計画的な募集活動の補佐に加え教育活動を効果的に伝える行事運営の支援などを行い、志願者数の増加を図る。</p>
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①中・高等部の募集業務補佐と支援の充実を引き続き行う。</p> <p>②募集人員充足に向け、説明会や公開行事等の運営支援や、電話・受付窓口等での入学希望者対応の充実を行いたい。</p>

12. 教育環境整備

12-①	・多様な学習内容・学習形態などに対応した施設・設備の整備が行われ、活用等が適切に図られているか。
2019年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①音楽室、美術・工芸室、書道室、情報処理演習室、調理実習室、家庭科室（被服）、物理・地学室、化学室、生物室など各特別教室を有効活用する。</p> <p>②各教室に設置された電子黒板を活用した授業を行う。</p> <p>③各教室でタブレット型端末などの機器を活用した授業を行う。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <p>・学習内容や学習形態に応じて、特別教室を使用した。</p> <p>・各教室や特別教室の電子黒板は、学習内容に応じて、パワーポイントをはじめ、画像や動画などの視聴覚教材に使用した。</p> <p>・中等部1年生、高等部1年生の教室に生徒用のアクセスポイントを設置したことで、タブレット型端末の活用の幅が広がった。</p>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <p>・本年度は中等部1年生、高等部1年生の教室のみ生徒用のアクセスポイントを設置したが、次年度以降についても各教室をはじめ、特別教室についても生徒用のアクセスポイントの整備が必要となる。</p>
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①音楽室、美術・工芸室、書道室、情報処理演習室、調理実習室、家庭科室（被服）、物理・地学室、化学室、生物室など各特別教室を有効活用する。</p> <p>②各教室に設置された電子黒板や、1・2年生の生徒全員が持っているタブレット型端末等の機器を活用した授業を行う。</p> <p>③新校舎のラーニングコモンズ、マルチメディアラウンジ等の有効活用を推進するために、令和2（2020）年度から新校舎運営委員会を設置し、組織的に取り組む。</p>

12-②	・施設・設備の安全・維持管理のための点検及び整備が行われているか。
2019年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①施設・設備の安全を確保する。</p> <p>②施設・設備の機能を維持する。</p> <p>③より快適な環境で生徒が学校生活を送れるよう環境整備を行う。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年次、月次、日常の点検により施設・設備の状況を把握し、不具合に対処した。 ・職員の日常作業の他、清掃・樹木管理、プールの保守点検など業者への委託による環境整備・安全確保等も行った。 ・空調設備など設備機器の経年劣化による不具合への対応を行った。 ・避難、防災の観点から家具転倒防止の固定確認、見直し作業を行った。 ・総合グラウンドの一部のネットフェンス（H=3.0m）に経年劣化による腐食がみられたため、ネットフェンス（H=1.2m）交換工事を行った。 ・正門付近を照らす外灯整備として、LED照明への交換工事を行った。 ・北館屋上塗膜防水に経年劣化による雨漏りが確認されたため、補修工事を行った。 ・台風被害による復旧工事として本館1階及び北館屋上出入口ガラス修繕、東側緑地の漏水工事を行った。 ・台風被害による安全対策工事として北館展望台笠木工事、テニスコート南側高木伐採工事、総合グラウンド部室の屋根材・壁材飛散防止を行った。 ・創立80周年記念事業 中等部・高等部新築工事エリアを仮囲いで区画し、生徒の安全を確保した。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年次、月次、日常の点検による施設設備の安全管理を継続する。 ・委託業務の内容などが実情に合わせたものになるよう見直しを図る。 ・創立80周年記念事業として岩瀬キャンパス再整備を計画している。その内容を踏まえて、設備整備計画を見直し、実行する。
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①施設・設備の安全確保、機能維持のため、日常点検・巡回を実施する。</p> <p>②業者委託業務による計画的な環境整備を行う。</p> <p>③創立80周年記念事業として中等部・高等部新築工事（令和3年9月開校予定）を計画している。環境に配慮し備品・家具の再利用を行う。</p>

12-③	・教材・教具・図書の整備や学校教育の情報化が適切になされているか。
2019年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①学習指導要領の改訂に伴い、必要となる教材・教具・図書を計画的に整備する。</p> <p>②パソコンや情報機器のマルチメディア性を生かし、教育活動の情報化を推進する。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <p>・各教室に設置された電子黒板をはじめ、中等部1年生・高等部1年生から導入したタブレット型端末は、様々な教育活動の場で活用された。</p>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <p>・学習指導要領改訂と新コース設置に伴い、現在使用している情報処理演習室、マルチメディアラウンジ、学習支援センターEの他にも、パソコンの台数・場所共に計画的に増やしていくことが必要とされる。</p> <p>・教育活動におけるパソコンや情報機器を利用した情報化は進んでいるが、利用方法については、より効果的な工夫と、それらを共有するための組織的なシステムづくりを進めていく必要がある。</p> <p>・図書室に関しては新校舎計画と並行して、図書委員会による図書管理などの方策を模索していく必要がある。</p>
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①学習指導要領の改訂に伴い、必要となる教材・教具・図書を計画的に整備する。</p> <p>②パソコン、電子黒板、タブレット型端末等のICT機器を活用した授業やオンライン英会話、「Classi」の教材を利用した学習に取り組む。また、臨時休業中はオンラインの学級活動や授業にも取り組み、教育の情報化を推進する。</p>

13. 事務支援体制

13-①	・ 中・高等部の教育活動における支援が適切に行われているか。
2019年度の 取組目標	【中・高共通】 ① 日常業務における事務支援体制全体の強化を図る。
目標に対す る取組内容 と成果	【中・高共通】 ・ 窓口での来校者や電話での各種問合せについては、「窓口は学園の顔」という言葉を常に意識し、適切かつ丁寧な対応に努めた。 ・ 業者支払いの勘定伝票や預り金についての新たな帳票を、引き続き初等・中等教育支援室で作成し、事務処理の合理化・厳格化をいっそう進めることができた。 ・ 校友会費処理についても、経理部と連携をとり改善を行った。 ・ 令和2（2020）年4月から中・高等部とも「国際教養コース」「プログレスコース」が新設されることに伴い、募集要項の作成や出願受付、入試、入学手続き等の見直しを中・高等部と連携し行い、一連の業務に支障なく対応することができた。 ・ 4年に1度行われている神奈川県私学振興課による私立学校検査が本年度実施された。併設校各部や総務部、経理部、施設管理部、保健センターと連携し、適切に対応を行った。
今後の課題	【中・高共通】 ・ 今後も窓口や電話での対応に関して、適切かつ丁寧な対応を心掛ける。 ・ 校納金の収納について、これまで保護者の引落とし口座の金融機関により引落日が異なり月に2日引落日が設定されていたが、令和2（2020）年度よりすべての金融機関で月1日に統一し業務の合理化を行う予定である。業務に支障のない様遂行したい。
2020年度の 取組目標	【中・高共通】 ① 日常業務における事務支援体制全体の強化を引き続き図る。 ② 高等学校等就学支援金や生徒学費緊急支援補助金事務を含め、校納金の収納や支援業務を支障なく行う。 ③ 預り金の管理業務について、引き続き適正に行われる様調整を行う。

14. 自己点検・評価

14-①	<p>・自己点検・評価が年に1回以上定期的に、全教職員が関与し、組織的に実施されているか。また、自己点検・評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか。</p>
2019年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①全教職員で自己点検・評価の結果を共有、次年度の取組目標を設定し、教育活動及び学校運営の方針の共通理解を深める。</p> <p>②より充実した教育活動及び学校運営のために、各々の校務分掌に沿って自己点検・評価を行い、PDCAサイクルの確立を目指す。</p>
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <p>・校務分掌の担当に応じて全教職員がそれぞれ行った自己点検・評価をもとに、各分掌で自己点検・評価を行った。全体で各分掌の評価結果と次年度の取組目標について認識を共有する時間を設けた。</p> <p>・校務分掌ごとに自己点検・評価を実施した。相互評価・外部評価の指摘を踏まえ、自己点検・評価の結果に基づく次年度の取組目標を設定でき、適切な内容でPDCAサイクルが機能している。</p>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <p>・評価結果や取組目標について、各分掌で共有する機会を設け、全教職員が現状と目標の認識を共有できる機会を設ける。</p> <p>・中期計画の当該年度の位置付けや相互評価・外部評価の指摘事項についての理解を深め、適切な取組目標を設定する。</p>
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①全教職員が自己点検・評価の結果を共有し、改善に向けて共通理解を深めるために、令和2（2020）年度から学校評価委員会を特別委員会として設置し、組織的に取り組む。</p> <p>②中期計画及び相互評価・外部評価の指摘事項を的確に理解し、各委員会、各担当者会は評価指標を適切に設定する。</p> <p>③21世紀型能力の育成と豊かな人間性の育成に向けた教育活動と広報活動の強化に重点的に取り組み、取組目標の達成を目指す。</p>